桜島

第18号
令和６年(2024年)
４月６日
発行所
俳人協会
鹿児島県支部
支部長 淵脇 護

「第１回鶴の町いずみ全国俳句大会」開催へ、画期的な行動力に拍手！

支部長　淵脇　護

去年の今ごろ、コロナは第５類に引き下げられたものの、治療薬もなく、収束の兆しは、見えないまま、不安を抱えての出発であった。

そうした中で、出水市では、教育委員会直属の文化協会が実行委員会（実行委員長・白男川孝仁）となって「第１回鶴の町いずみ全国俳句大会」を立ち上げ、地元俳句会の湾・天日・河鹿などの強力なご支援のもと、いよいよ３月９日、マルマエ音楽ホール出水で実施となった。岸田総理大臣、盛山文科大臣の祝辞をいただき、また県知事や出水市長の臨席を得ての、鹿児島県で初めての「俳句全国大会」で、まさに画期的と言わざるを得ない（２月15日現在）。

本年度、公益社団法人俳人協会鹿児島県支部は創立40周年を迎える。そうした中、今年も確固たる計画を提示する。諸行事の詳細は別途記載されているので、よく読んで記憶にとどめ、一人一人の会員が、積極果敢に行動されるように願って止まない。

①第４回春季俳句大会（募集句）　２／１(木)～２／29（木）
②総会・吟行会　４／６（土）
③桜島俳句大会（募集句）　８／１(木)～８／31（土）
④桜島俳句大会（吟行会）　10／13（日）

令和５年度俳人協会鹿児島県支部行事について

◎支部総会・吟行会

桜咲き満ちる４月２日、午前10時30分より支部総会が鹿児島市勤労者交流センターにおいて開催された。参加者は46名。

総会では新副支部長に山之内赫子氏が満場一致で選任された。

午後１時より句会。まず、事前に募集した第３回春季俳句大会の投句作品338句について３月24日締切の互選の結果発表、選評、表彰を行った。今回は本部推薦の今井聖理事にも選句をいただき好評であった。

（大川畑光詳）

【第３回春季俳句大会（募集句）】

大会賞

先生の最後のだつこ卒園す　寶來喜代子

鹿児島県俳人協会賞

荒縄に光る若布を滴らす　今吉信子

優秀賞

万緑や産湯に浸す温度計　寶來喜代子
多喜二忌の鰓骨沈む汁啜る　菊地優子
亡骸へこゑ落としつつ鶴帰る　薗　孝湖
引く鶴を畑で見送る島暮らし
余寒なほ手より崩るる絹豆腐　山寄加代子
甌穴に光の渦や三十三才　城戸凜
蒲公英の束置かれあり秘密基地　前薗真起子
つくし野に蜂起の歴史隼人塚　岩井三葉
海峡を跨ぐ大橋鶴帰る　久永のり尾
フリージア明日は島発つ子の机上　尾上春風
庵﨑京子

選者特選（五十音順）

今井聖選
多喜二忌の鰓骨沈む汁啜る　菊地優子
大川畑光詳選
たんぽぽや野面積みなる砦趾　池田貴之
折田幸弘選
引き鶴や二番のりばの雲を待つ　折田明子
徳田正樹選
先生の最後のだつこ卒園す　寶來喜代子
中間惠子選
荒縄に光る若布を滴らす　今吉信子
長柄英男選
亡骸へこゑ落としつつ鶴帰る　薗　孝湖
濵田彰典選
蒲公英の束置かれあり秘密基地　岩井三葉
淵脇護選
特攻の壕の湿りや花菜咲く　東　良子
寶來喜代子選
石畳踏絵は板に戻りけり　藤元睦子
山之内赫子選
甌穴に光の渦や三十三才　前薗真起子
和田洋文選
余生てふひかりあふるる野に遊ぶ　窪　昌子

【令和５年度春の吟行会】

最優秀賞

花の昼足の先まで嬰笑ふ　窪見れい

優秀賞

実るまで生くる覚悟や柿を植う
死病越え米寿を越えて花筵　石堂絹子
矮鶏の尾の螺鈿光りや春日影　中村池塘子
一片が句帳に留まる花吹雪　池田貴之
志士も見し楠の芽吹きに抱かるる　前田浩海
さくら咲く薩摩に遺るいろは歌　藤元睦子
川波の光啄む初つばめ　中村池塘子
二つ家に樋の間板の間百千鳥　折田幸弘
西駅と呼びし往時や樟若葉　中間惠子
木村いく

選者特選（五十音順）

大川畑光詳選
矮鶏の尾の螺鈿光りや春日影　池田貴之

折田幸弘選
花の昼足の先まで嬰笑ふ　窪見れい

徳田正樹選
花万朶川はゆるりと蛇行する　井手恵子

中間惠子選
貫禄の幹くろぐろと朝桜　中間秀幸

長柄英男選
死病越え米寿を越えて花筵　中村池塘子

濵田彰典選
余生てふ蕾の生まれ春の空　前田浩海

淵脇護選
死病越え米寿を越えて花筵　中村池塘子

寳來喜代子選
蒔いてより時打ち初むる物の種　久永のり尾

山之内赫子選
川波の光啄む初つばめ　折田幸弘

和田洋文選
さくら咲く薩摩に遺るいろは歌　中村池塘子

◎令和５年度桜島俳句大会

秋晴の10月15日、13時より、桜島の国民宿舎レインボー桜島にて桜島俳句大会を開催した。50名が参加し、150句の投句があった。午前中の吟行では噴火による火山灰が薄々と降っていた。

同大会は昨年より桜島をテーマにした事前募集句と吟行会の二本立てで実施。募集句選者には本部の染谷秀雄・藤本美和子両理事にも加わっていただいた。87名、285句の投句があった。（大川畑光詳）

【募集句】

大会賞
（俳人協会鹿児島県支部賞）
むべ熟るる机一つの駐在所　藏薗弘子

南日本新聞社賞
大夕立熔岩百態のあらたまる　藤元睦子

鹿児島県俳人協会賞
鵙猛る島は古代の火を孕み　藤元睦子

優秀賞
揚舟の魚臭の強き残暑かな　中間秀幸
蛸壺の積まれて百の口昏し　淵脇　護
馴れつこの噴火を余所に入学す　森喜代子
烏賊干して港食堂賑はへり　今吉信子
秋うららサドルを高く島巡る　岩井三葉
火の島の水なき川や郁子熟るる　中村池塘子
秋岳が窓いっぱいの操舵室　久永のり尾
ひたひたと熔岩打つ波や夏の果　樫山きみ代
蔓引けば一島傾ぐ郁子の花　山口雄二
薄れゆく噴火の記憶落し文　假屋貞二

選者特選（特別選者以下五十音順）

染谷秀雄特選
火の島の水なき川や郁子熟るる　中村池塘子

藤本美和子特選
いく度も火の島を指し盆踊　窪見れい

大川畑光詳選
火山灰被るほかなき島の貝割菜　高原純德

折田幸弘選
鵙猛る島は古代の火を孕み　藤元睦子

徳田正樹選
馴れつこの噴火を余所に入学す　森喜代子

中間惠子選
大夕立熔岩百態のあらたまる　藤元睦子

長柄英男選
大根蒔く生涯島を住みかとし　徳田正樹

濵田彰典選
馴れつこの噴火を余所に入学す　森喜代子

淵脇護選
山噴きて末つ子嫁ぐ菊日和　山下啓子

寳來喜代子選
揚舟の魚臭の強き残暑かな　中間秀幸

山之内赫子選
蛸壺の積まれて百の口昏し　淵脇　護

和田洋文選
椿の実転げ落ちたる熔岩の闇　樫山きみ代

【吟行会】

最優秀賞（レインボー桜島賞）
熔岩掴みつなぐ生命や新松子　園田和江

優秀賞
指で割く無塩鰯や桜島　白男川孝仁
火山灰染めのワークショップや　小鳥来る　窪昌子
山噴けば葛ほろほろと花零す　西田まり子
火の島の鼓動を宿す椿の実　山県史子
鰐口に火山灰うつすらと秋の宮　中間惠子
島に生れ島に生かされ大根引く　西田まり子
湯に二本白き足入れ竜田姫　淵脇　護
爽籟や小鳥遊ばす芙美子像　小野久美子
野良猫の眼に宿る秋思かな　大坪八代子
葛の葉に火山灰厚く積む秋暑かな　木村　いく

選者特選（五十音順）

大川畑光詳選
蛇穴に入るバス停の退避壕　金子嘉仁

折田幸弘選
湯に二本白き足入れ竜田姫　淵脇　護

中間惠子選
十月の梯梧散り敷く島の路地　池田貴之

長柄英男選
秋うらら少女芙美子の素足にて　大川畑光詳

濱田　彰典選

小みかんの熟れて芙美子を生みし島　淵脇　護

淵脇　護選

芒穂の風を遊ばす切り通し　藤元睦子

寳來喜代子選

山灰染めのワークショップや小鳥来る　窪　昌子

山之内赫子選

避難港に水上バイク秋の潮　長柄英男

和田　洋文選

露けしや竜骨晒し難破船　假屋貞二

私の吟行地（18）
梅ヶ渕観音院

福永　政江（河鹿）

国道３号線より伊敷梅ヶ渕橋を渡り、突当りを右に折れ、しばらく進むと左に観音堂登り口があります。

かつて、第二次ベビーブーマーに沸く頃は多くの受験生やその家族の参拝者で賑わったものです。下の駐車場はいつも満杯で、その向かいには川沿いに地元の方が露地もの野菜や花や果実などを並べてちょっとした市の様でもありました。近くのお蕎麦屋さんにもお参りのご褒美によく立ち寄ったものです。

２月初旬、久し振りに狭い坂をゆっくり登っていくと行き交う人もなく、四温晴れの暖かな日差しの中で名突山からの水が、瀬を速め暗渠へと落ちる音が身に沁みます。

所々、お休み処が設えてあり、一気に開花した一本の白梅の側には「厄払い」の幟がなびき、建物の中には護摩木を焚いた跡がありました。そこここには小さなお地蔵様が鎮座され、今も懐かしい光景に変わりはありませんでした。

いよいよ観音堂への階段です。

梅東風や石階険し観音道　政江

登りつめると眼前に羽衣がごとき裳裾を湛え、見目うるわしくも慈悲深き観音様と出会うことになります。仄暗き堂内には幾重にも願掛け絵馬が掛けてあり、余所ながら成就を祈るばかりです。と、後ろから年配の御夫婦が上って来られここまでの道のきつさに頷きながら、毎月18日が縁日で結構な人出があると教えていただきました。

その方達に倣って蠟燭に願い事を書き、線香を供え穏やかな心持ちでお参りを済ませ、帰途に就きました。

かけ蕎麦に七味ひと振り春浅し　政江

鹿児島歳時記（16）
鹿児島サマーナイト花火大会

折田幸弘（ざぼん・橡）

２０００年に第１回大会が開催されたサマーナイト花火大会も昨年で21回目となった。桜島をバックに１万５千発の花火が夜空を彩り現在九州最大の花火大会となっている。花火製造所の事故と桜島の噴火レベルが引き上げられた時、２回の中止はあったが、鹿児島の夏の風物詩のひとつとなっている。

毎年８月の下旬に開催。夏休み中でもあり県外からも多くの見物客で賑わう。

主催者の発表によると約10万人の人出だと言う。第１回大会では花火の打ち上げが消えたのを思い出す。終了後の混乱は夜中まで続いた。昨年は東京ディズニー開園40周年を記念してドローンを使ったディズニーショーが行われ見物客を魅了した。

また10月に開催された「燃ゆる感動かごしま国体・かごしま大会」を記念した創作花火や一尺玉百連発、特別スターマイン、ラストの二尺玉同時打ち上げで大盛り上がりであった。特に二尺玉の音は爆弾でも落ちたのではないかと思うくらいお腹の底に響いて来た。

花火師たちの準備の姿や終った時の様子などを映像で見たことがある。その苦労は俳句の材料にとても良いシーンだと思う。当日は錦江湾にクルーズ船も出て海からも観覧できた。また対岸の桜島からも綺麗に見えたと言う。近年では有料観覧席も設けられ場所取りも容易になったらしい。

揚花火星押し上げて開きけり　山之内赫子

コロナ期間中は混雑を避けるために花火の打ち上げ場所を鹿児島市内の隔地に分散させて行われた。主催者の苦労が伝わって来た。

毎年、趣向を凝らした演出で観客を感動させてくれるこの大会、いつまでも続けて欲しいものです。

支部会員新刊句集紹介

◎第一句集『白毫』瀬戸清子

（文學の森　２０２３年６月刊）

令和５年６月に瀬戸清子（「湾」前主宰）氏の句集『白毫』が上梓された。句集名となったのは、霧島での吟行句会で神蔵器先生の特選句になった〈大山蓮華白毫の香を放ちけり〉に由来する。大岳水一路を師と仰ぐ瀬戸氏は「湾」の作句姿勢である吟行で鍛えた写生の力で句材の本質を摑みながらも女性らしい感性の深さと機智的表現措辞の確かさは師である大岳水一路が認めるところであった。

尺蠖に量られ日本武尊の地
乳のみ児に真珠の前歯桃咲けり
こぼれ萩地にまだ風の息づかひ

（和田洋文）

◎第七句集『鷹柱』淵脇護

（文學の森　２０２３年７月刊）

「河鹿」主宰、支部長淵脇護の第七句集。平成30年から令和４年までの３００句が収めてある。あとがきで述べているように、俳句も鷹のように鋭く、また格調高く、句の立ち姿が美しくありたいと努めてきた。一方で句が鷹揚で、優しく、平明でありたいと願った。さらに欲張って読んで楽しく、生きる勇気をもたらすものでもありたい。とその通り、俳人必読の素晴らしい句集である。

源義の直系として花に立つ
父よりも父に似しわれ木の葉髪
天涯の地に立て直す鷹柱

（徳田正樹）

能村研三俳人協会理事長　福永耕二句碑を訪ねる

令和６年３月９日に出水市で開催された第１回鶴の町いずみ全国俳句大会の記念講演をされた能村研三俳人協会理事長が、10日福永耕二ゆかりの地を訪ねられた。かごしま近代文学館、千貫平と石谷公園に建つ句碑、生家址、墓地などを巡った。今回は30数年ぶりの再訪であったという。沖の若手俳句会で教えを受けた福永耕二こそわが俳句の師であると公言する能村理事長にとって感慨深いものがあるようだった。

特に句碑がよく守られていること、耕二を顕彰する俳句大会がすでに25回を迎え、12万句を超える投句が寄せられていること、その最高賞の作品が耕二の句碑に並べて掲示されていることなどをすばらしいことと喜んでおられた。

結社のニュース

「河鹿」

角川春樹主宰の「河」８月号で、同人欄の小川莎良さんが第一位、会員欄でねいまみさんがそれぞれ第一位を占めるという快挙があった。さらに小川莎良さんは５年度の「角川春樹賞」の次席、「河賞」の次席という快挙に輝いた。今後の躍進に期待がかかる。主宰の淵脇護は第７句集『鷹柱』を刊行。「河」の３月号で特集が組まれ、鎌田俊河副主宰・菊地悠太・小川莎良・ねいまみが鑑賞した。また「俳句界」６月号でも小特集の予定で、藤元睦子・中橋藤七・菊地優子が執筆する。「河鹿」は来年３月号で３００号に達する。

（淵脇　護）

「ざぼん」

吟行会は春が枕崎の火の神公園、秋は児玉美術館。会員が地方にも多く顔合わせの良い機会になっている。ざぼん新春俳句大会を１月に開催。令和５年度のざぼん賞に筑後在住の井口登美子氏、功労賞に松山博文氏、新人賞に園田和江氏が選ばれた。

荒田句会は天文館にある「喫茶メルヘン」を主のご厚意で会場に利用させて戴いている。向田邦子さんとの関わりのあるお店でもある。令和５年度は新人も多く入会し新しい風が会員に刺激を与えてくれている。通巻８５０号を迎える６月が待ち遠しい。

（折田　幸弘）

「鹿児島橡」

堀口星眠（現三浦亜紀子）主宰の「鹿児島橡」の傘下として橡鹿児島支部会を結成。平成６年５月に俳誌「鹿児島橡」（年２回）の発行となりました。紙面の充実を図るために長柄英男編集長を囲み、努力を重ねています。この頃では読み応えがあるとの言葉を頂き、大変喜んでいるところです。

文豪や鹿児島ゆかりの作家の俳句作品、俳句に役立ちそうな書籍の紹介、会員の随筆等の掲載も楽しかったです。

長く会計を担当していた鎌迫弘子さんが他界され沈んでいましたが、今回前薗真起子さんが橡集巻頭に輝き、一同元気を取り戻し、活気が出てきたように思います。

紅さして薩摩野路菊老い初む　真起子

（山之内赫子）

「若葉鹿児島」

年間２回発行の会誌「若葉鹿児島」はようやく20号に達し、19号から「鹿児島の俳人たち」と題する連載が始まった。

毎月の例会、研究会も順調に開催できた。

令和４年「若葉」終刊に伴い、「岬」（仲井亮二主宰）に参加している。「岬」は１９

５５（昭和30）年「若葉」同人勝又一透が横浜で創刊。森重昭、中間秀幸が主要同人として深く関わった縁がある。昨年12月滋賀県で開催された誌友の会には鹿児島から５人が参加した。昨年の「岬」での鹿児島勢の活躍はめざましく、２名が巻頭を飾った。また、中間秀幸が永年連載してきた「近世俳句鑑賞」が53回で完結した。長年の研究に基づく労作であった。（大川畑光詳）

「湾」

湾俳句会では毎月の湾誌発行、定例句会の開催など順調に実施することができた。定例句会では昨年度から遠方での吟行を可能にするため、終日吟行による通信紙上句会という形も取り入れることができた。昨年は鰻池、枚聞神社などの指宿方面や薄井漁港、小浜崎古墳などの長島方面で行うことができた。今年も４月に坊津方面での終日吟行会が計画されている。また、10月には２年ぶりに一泊二日の鍛錬句会を長崎で実施する予定である。

昨年６月には会員が待望していた前主宰の瀬戸清子氏の第一句集『白毫』が出版され、20数年間の俳句作品から２００句余が掲載された。これから会員の俳句作りの良き お手本としての一冊になると思われる。（濵田彰典）

深悼

阿久根保代（５・９・26）75歳（若葉鹿児島）
戸袋の火山灰を掃き出す年用意

辻　晴嵐（５・10・19）94歳（湾）
長梯子冬空跨ぐ庭師かな

池田　行雄（６・１・25）75歳（湾）
言ひ訳は言はぬ晩酌しじみ汁

会員紹介

板坂（いたさか）　良子（りょうこ）（昭和19年生／馬酔木・火の島）

【俳歴】昭和39年ざぼん・馬酔木に入会。米谷静二先生を経て丸山眞先生、徳田千鶴子先生に師事。

【信条】感動する心を平明に詠みたい。

寄書きの希望の余白卒業す
水打つや庭先に散る日のかけら
林檎剝く気骨一途な兄の忌来
出水野の風を一つに鶴の竿
影ただす万の酢甕や去年今年

假屋（かりや）　貞二（ていじ）（昭和12年生／獺祭）

【俳歴】平成17年「阿久根俳句会」入会。濵之上九紫氏に師事。平成24年「獺祭」（東京）入会。本田攝子氏に師事。現在同人

【信条】韻とリズムを大切に、分かりやすい句作に勉める。

晩鐘や塒へ急ぐ鶴の群
山霊の漂ふ杜や青葉闇
螢飛ぶ征きて帰らぬ兵の里
サングラスとれば柔和な好々爺
李白の詩おどろおどろの吉書かな

馬渡（まわたり）　光子（みつこ）（昭和32年生／雛）

【俳歴】平成20年若葉入会（鈴木貞雄先生）平成23年惜春入会（髙田風人子先生）を経て平成27年雛入会。福神規子先生に師事。

【信条】季題を大切に、投句を続けていく。

百千鳥聴いて目覚める朝が好き
浜万年青イルカの泳ぐ海に咲き
ラジオからショパンの調べ花の雨
秋の田に吹く風青き匂ひして
ノスタルジア過去も未来も夕焼けて

渡邊（わたなべ）　康子（やすこ）（昭和38年生／秀）

【俳歴】東京女子大学白塔会にて山口青邨先生の指導を受け、昭和61年夏草入会。屋根・藍生・秀に入会。斎藤夏風先生、黒田杏子先生、染谷秀雄先生に師事。

【信条】季語の現場に立つこと。

クロークにひとつ残りし冬帽子
被災者のひとりとなりぬ猫柳
朝顔の蔓の向かうに桜島
水澄んで放哉居士の墓所ひろき
土器を箸置きにして栗の飯

令和５年度新会員紹介

浅川美恵子（河鹿）
【俳歴】平成24年河鹿入会。淵脇護先生に師事。現在河鹿くす乃き俳句会所属。

風の押す煙ひとすぢ初御空

出森陽子（ざぼん）
【俳歴】平成25年ざぼん入会。山之内赫子先生に師事。現在菜の花句会所属。折田幸弘先生に師事。

万人の願ひ受止め初日の出

岩井三葉（河鹿）
【俳歴】平成24年河鹿入会。淵脇護先生に師事。現在河鹿ひまわり・さつき俳句会所属。

緞帳の内のざわめき春の宵

梶原宣俊（昭和21年生・夕鶴）
【俳歴】令和元年夕鶴俳句会入会。淵脇護先生に師事。

オンライン俊寛流る冬釧路

桂豊子（河鹿）
【俳歴】平成30年河鹿入会。空湯地通先生に師事。現在河鹿紫陽花俳句会所属。

水揺らし光を揺らし蝌蚪の群

榊秀樹（河鹿）
【俳歴】平成29年河鹿入会。淵脇護先生に師事。現在河鹿天降俳句会所属。

春よ来い海光叩く鯨の尾

坂口美恵子（ざぼん）
【俳歴】平成30年10月ざぼん入会。山之内赫子先生に師事。現在珊瑚句会に所属。

介護靴の中に母の名クリスマス

四之宮菊江（河鹿）
【俳歴】平成29年河鹿入会。淵脇護先生に師事。現在河鹿天降俳句会所属。

四温晴れ外出拒む膝を持つ

関佳代美（河鹿）
【俳歴】平成12年河鹿入会。淵脇護先生に師事。現在は河鹿明神俳句会所属。

精米のこぼれ啄む寒雀

竹内功（河鹿）
【俳歴】平成23年河鹿入会。淵脇護先生に師事。過去、河鹿明神俳句会所属。

ゆく年のころとなりたりまだゆかん

中久保早苗（若葉鹿児島・岬）
【俳歴】令和２年若葉入会。鈴木貞雄先生に師事。令和４年岬入会。仲井亮二先生、大川畑光詳先生に師事。

掛け終へし稲架の一棹夕日差す

野口緑（ざぼん）
【俳歴】平成30年ざぼん入会。山之内赫子先生に師事。現在珊瑚句会に所属。

秋ともし庭の暗さの深まれり

藤村アイ子（河鹿）
【俳歴】平成27年河鹿入会。淵脇護先生に師事。現在河鹿吾亦紅句会所属。

手を上げるだけの挨拶大根播く

若松祥子（河鹿）
【俳歴】平成元年河鹿入会。淵脇護先生に師事。現在河鹿吾亦紅句会所属。

リズム持つ子等の自転車冬木立

【編集室より】
今年は元日から能登を地震が襲った。一日も早い安寧をお祈りしたい。皆さんもご健吟を。（大）

発行　俳人協会　鹿児島県支部
発行者　支部長　淵脇　護
編集者・事務局　大川畑光詳
（TEL・FAX〇九九-二四四-一八二〇）
印刷　（株）朝日印刷